

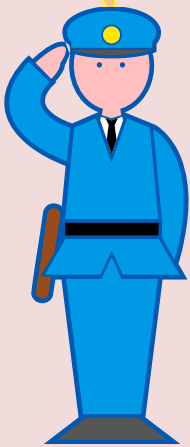
「おまわりさん」の本

福岡県立図書館
青少年コーナー



一月のおすすめ

全て貸出できます。
貸出されていたら
予約も受け付けてい
ます！



一月十日が何の日かご存知ですか。この日は、一一〇番の日です。言わずと知れた警察への緊急電話番号ですね。一一〇というごろ合わせで決まった日ですが、一一〇番の有効利用のために始められました。今回は、それにちなんで「おまわりさん」をテーマに本を紹介します。

まずは、「おまわりさん」としてデビューしたばかりの新人巡査のおはなしです。



『ボクの町』

乃南 アサ 著

毎日新聞社 F/16/4B

高木聖大（せいだい）は、彼女にふられたことで「もう女なんか信じるものか」と思い、女っ気のない職場という理由で警察官を志望しました。無事に採用試験には合格したのですが、警察学校に入る頃には、男ばかりの味気ない生活のなかで、この道に入ったことを少し後悔していました。

職場実習期間を終了し、見習い巡査としての彼を待っていたのは、お年寄りへの道案内、自転車盗難届の受付、喧嘩の仲裁などの仕事。しかし、短気な高木巡査はすぐにイライラ、うまく業務をこなすことができません。失敗してもあまり気にしない性格のため、先輩にはしつこく怒られていました。

ある日、同期の三浦が犯人追跡中に大けがをしてしまったことから、緊張感をもって仕事に励むようになります。ようやく成長し始めた高木巡査でしたが…。

新人巡査の成長する話の次は、ベテランの刑事が凶悪な頭脳犯と戦う話です。



『犯人に告ぐ』

霽井 脩介／著

双葉社 E/3161/5

警視になって大きな事件を扱ったことがなかった巻島の管轄で誘拐事件が起こった。手柄を立てるチャンスだったのだが、捜査のミスで人質を取り戻すことはできなかった。その後、記者会見を任された巻島だったが、過失を認めようとしない上層部の意見のためマスコミから強いバッシングを受ける。その席で記者と口論を起こした巻島は田舎の警察署へと左遷されることになった。

6年後、「バッドマン」と名乗る男児誘拐殺人犯が次々と事件を起こし、解決の糸口をつかめない神奈川県警は世間から非難されていた。進展のない状況を打開するために上層部がとった策は、捜査側がマスコミを通じて情報提供を求めるという劇場型の捜査だった。その頃、巻島は赴任先の活躍し、トップクラスの検挙率を挙げようになっていた。上層部が劇場型捜査の責任者として白羽の矢を立てたのは、その巻島だった。

警察官の仕事というのは、とても多岐にわたっています。次に紹介する小説の主人公は自分の得意なことを仕事に活かして活躍していたのです…。



『顔 FACE』

横山 秀夫 著

徳間書店 E/349/4

小学生のころの「婦警さんになること」という夢をかなえて警察官になった平野瑞穂（みずほ）巡査。

鑑識課の一員として、事件の被害者や目撃者から犯人の特徴を聞き出し、似顔絵を作成する専門職として働いていた。やり甲斐を感じ、誇りを持って働いていた彼女だったが、ある事件をきっかけに似顔絵の担当を外されてしまう。

新しく配属されたのは、広報室だった。そこで、広報用のイラストを担当していたのだが、ある日、新聞社への情報漏洩を内部調査することになる。マスコミ対策を担っている広報室としては、刑事部よりも先に突き止めなければならなかった。警察という男社会の中で軽んじられ、悔しい思いを何度もしながらも、平野巡査は見返してやりたいという思いから少しずつ犯人像を掴んでいく。

『ボクの町』『顔 FACE』の舞台は町の交番や警察署ですが、次に紹介する本は、人里離れた山上で働く警察官の話です。



『遭難者を救助せよ！』

富山県警山岳警備隊

極限の任務に立ち向かう男たち』

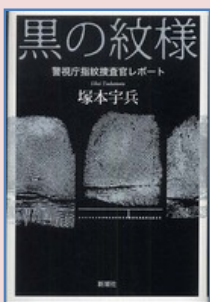
細井 勝／著

PHP研究所 786/1/264

立山連峰の標高三千メートルという日本一標高の高い場所にあるところに、上市警察署室堂警備派出所があります。ここで働くのは、遭難事故に備えて待機する山岳レスキューのプロ集団です。

好きな山に登ることと任務が重なり合うという理由で山岳警備隊の隊員を志望する人もいれば、警察官の任務の一つとして受け止めた上でこの仕事を選ぶ人もいます。彼らが過酷な訓練を続け、命の保証もない任務に体を張り続けることが出来るのは、「世界にたった一つの命を救う使命感」からです。隊員たちへのインタビューから、彼らの「自分はどうしてもここで働きたい」という仕事への熱意が伝わってきます。

テレビのサスペンスドラマなどに登場する指紋採取シーン。次に紹介する本は、指紋の専門家が書いた本です。



『黒の紋様』
警視庁指紋捜査官レポート
塚本 宇兵／著
新潮社 317/76/5

誰の指先にもある「指紋」。指紋には「万人不同」と「終生不変」という二つの大きな特徴があります。そのことを活かして犯罪を解明したり容疑者を特定したりするのが、指紋捜査です。

長い間、鑑識課の指紋係で働いてきた著者が、実際に扱ってきた事件を紹介しながら捜査について説明していきます。

ある時は、血液指紋から、またある時は、腐乱死体から指紋を採取していきます。人は嘘をつくが、指紋など「モノ」

は絶対に嘘をつかないという鑑識の強い思いが事件の核心に近づいていきます。

最後に紹介するのは警察を引退した主人公の第二の職場での物語です。もっとも、「官」ではなく「犬」ですが…。



『パーフェクト・ブルー』
宮部 みゆき／著
東京創元社
F/≒71/S20B

この物語の語り手は、元警察犬のマサ。蓮見探偵事務所に引き取られた彼の仕事は、調査員として働く加代子のお供をすること。

ある日、家出少年の捜索に出かけた加代子は、途中で酔っぱらいに絡まれてしまう。その場を助けてくれたのは、彼女が探していた少年・進也だった。進也を連れて車での移動中、ガソリンをかけられて燃やされている男性を発見する。その男性は、進也の兄で高校野球の有名選手の克彦だった。警察の事情聴取の後、探偵事務所からいなくなってしまった進也を加代子は探すのだが…。

以上六冊を「おまわりさん」というテーマで紹介しました。これ以外にも「おまわりさん」の本をたくさん揃えています。ぜひ、御利用ください。また、同時に「資格」の本も集めています。「青少年と暮らしの交流室」（青少年コーナー）でお待ちしています。

「おまわりさん」の本 展示資料リスト (いずれも貸出可)

No.	資料 I D	書名	巻号	著者名	出版者	出版年	請求 記号
1	1106529114	ボクの町		乃南/アサ 著	毎日新聞社	1998. 9	F /16 4B
2	1105683082	犯人に告ぐ		雫井/脩介 著	双葉社	2004. 7	F シ161 5
3	1105386118	顔		横山/秀夫 著	徳間書店	2002. 10	F 349 4
4	1106493216	遭難者を救助せよ!		細井/勝 著	PHP研究所	2007. 10	786 1 264
5	1106529761	黒の紋様		塚本/宇兵 著	新潮社	2007. 8	317 76 5
6	1106924034	パーフェクト・ブルー		宮部 みゆき 著	東京創元社	1992. 12	F ミ71 S20B
7	1106688944	警察のしくみ		北芝/健 監修	ナツメ社	2008. 1	317 7 116
8	1105956359	科捜研うそ発見の現場		松野/凱典 著	朱鷺書房	2004. 10	317 75 28
9	1107470296	警察官になるには		宍倉/正弘 著	ぺりかん社	2009. 11	366 29 92-48
10	1106360660	海を守る海上保安庁巡視船		邊見/正和 著	交通研究協会	2006. 5	557 8 17
11	1106792223	闘う!海上保安庁		岩尾/克治 著	光人社	2008. 5	557 8 19
12	1106811706	交通事故の知識とQ&A		高橋/勝徳 著	法学書院	2008. 3	681 3 116
13	1106486717	交通事故の法律知識 [2007]改訂版			自由国民社	2007. 8	681 3 98
14	1103594764	赤川次郎ミステリーコレクション 2		赤川/次郎 作	岩崎書店	2002. 9	913 アカ S
15	1104429537	ボーン・コレクター		ジェフリー・ディーヴァー 著	文芸春秋	1999. 9	F D92 2
16	1106410046	警官倶楽部		大倉/崇裕 著	祥伝社	2007. 2	F オ210 8

「おまわりさん」の本
展示資料リスト (いずれも貸出可)

No.	資料 I D	書名	巻号	著者名	出版者	出版年	請求 記号
17	1107058382	函館水上警察		高城/高 著	東京創元社	2009. 7	F コ165 1
18	1106773805	TOKAGE		今野/敏 著	朝日新聞社	2008. 1	F コ89 5
19	1106534355	田舎の刑事の趣味とお仕事		滝田/務雄 著	東京創元社	2007. 8	F タ288 1
20	1105525457	リミット		野沢/尚 [著]	講談社	2001. 6	F ノ31 7
21	1106742457	ぼくたちと駐在さんの700日戦争 1	1	ママチャリ 著	高陵社書店	2007. 5	F マ145 1
22	1106742469	ぼくたちと駐在さんの700日戦争 2	2	ママチャリ 著	高陵社書店	2007. 5	F マ145 1
23	1105617449	陰の季節		横山/秀夫 著	文芸春秋	2001. 10	F ヤ49 S12